



①「ボタンゆき」は中央図書館で借りることができる②制作した人形が通販誌「apron press」の表紙に採用された③手芸制作は4月から開いた小花のアトリエで行われている



## 手芸作家 にしうら としこさん

市在住。学生時代から手芸制作が趣味。1987年に集英社「non-no」第7回ノンノ手芸賞に人形が入選。2022年2月に絵本「ボタンゆき」を自費で出版し、市内の画廊シャノワール絵本出版原画展に出席。

## ボタンや古い布 雪のように消えてしまう前に 作品としてカタチに残したい



——手芸制作への思いを教えてください。

学生の時から、授業中に隠れて作るくらい好きでした。結婚して子育てが一段落ついたころから本格的に活動し、雑誌やコンクールに作品を応募するようになりました。今でも制作意欲はどんどん湧いてきます。でも年も重ねていますし、体力的にも限界があつて。アトリエで活動するためには仕事をしています。それも家族や周りの人の支えがあつて続けられています。私のアトリエにたくさんある、ボタンや布の切れ端。譲ってもらったり、自然と集まったり。捨てられて終わりは悲しいから、何か形に残したいと、制作を続けていきます。

——なぜ手芸作品ではなく、絵本「ボタンゆき」を出版されたのですか？

知人が作った布の絵本を見て、私も何か作りたいと思ったのがきっかけでした。そんな時、フェルトの切れ端の上に乗った古いボタンを見て、「これだ」と思ったんです。消えてしまう前に形にしたいと、言葉遊びのようなフレーズを散りばめて作ったのが「ボタンゆき」。子どもには、少し難しい言葉もあるかもしれないけど、おとなになつてからその言葉を見た時にふっと思い出して、温かい気持ちになつてもらえたらうれしいですね。

——今後の目標をお願いします。

画廊シャノワールから人形作品の出版依頼の話をしていただいています。今後は自分の体と相談し、仕事と折り合いをつけながら、ゆっくり準備していこうかなと思います。

### CHECK & QUIZ

次の空欄（○の中）を埋めてください。  
 1：○空彩る大輪 2：秋の○山を巡る

クイズ正解者の中から図書カード（1,000円分）を5人に差し上げます（正解者多数の場合は抽選。当選者のみに送付します）。応募方法：市ホームページ（右の2次元コードからアクセス可）から必要事項を送信するか、はがきにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、興味のある記事と感想を書き、8月10日（水）（消印有効）までに〒666-8501・広報広聴課「クイズ」係へ。  
 ※7月号の正解は（ビ）（チ）で、137件の応募がありました。



### 6月末現在の人口



男……………73,261人（-39）  
 女……………82,088人（-49）  
 計……………155,349人（-88）  
 世帯数…71,216世帯（+31）

